

# 豊庄だより



第 763 号 2023 年 6 月 26 日

先週の金曜日、6 月誕生会を久しぶりに全員がホールに集い行いました。週明けの今号で第一に取り上げたいのですが、5~6 月の行事で「たより」に

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達

載せなかった 3 つ

の行事があり(5月26日に行った5月誕生会、6月2日の魚ツチング、そして6月10日の保育参観)、こちらから書きます。

5月誕生会は2部制とこれまでと同じくコロナ対策マニュアルにのっとり行いました。しかし、新しい取り組みを一つ取り入れました。それはステージ上で誕生者一人ひとりに司会の保育士が質問する内容と答える方法の変更でした(ひまわり組だけです)。これまでひまわり組には住所・電話番号まで聞いていましたが、プライバシーの侵害に関



わることはないかと考え、名前と年齢以外に、「将来何になりたいですか?」に変えました。「パン屋さん」「野球選手」などが出ましたが、「考え中です」という答えには、子どもなりに将来のことをいろいろと考えているのだなあと思いました。また写真にありますように子どもたちがマイクを持ち保育士の応答でなく自分一人で話したことは、これまでより自分と向き合い、考える力がつくのではと思いました。

「魚ツチング」は、見学に来られた人が園の「しおり」を見て、「これって何をやるのですか?」とよく聞かれます。魚を解体して子どもたちにそれを見せ・触らせ、自分たちが一匹の魚が口に入るまでの流れを学ぶ時間になっています。見事な包丁さばきで解体をしてくださったのは、以前豊庄保育園の給食の山下先生でした。先生は解体の合間に子どもたちに語りかけ、質問や感想を聞いてくださいました。このやりとりの中で、「かわいそう」という感想がありました。私はそれを聞いた時、「命をいただいているんだよ」と言いたかったのですが、発言を逸してしまいました。話すべきだったと思っていざしたら、その日のひまわり組のホワイトボードに、「命をいただくので、残さないで食べてほしいですね」と書かれていて、私はにこっとしました。クラスに帰り、子どもの気持ちを受け止め、命の大切さを伝えていました。



「保育参観」は、2部制で行いましたが、参加された保護者のみなさんから、「よかったです」と多くの声を聞き、行って本当に良かったと思えました。コロナ禍の前は、クラスの参観終了後、「我が家の子育て奮闘記を語る会」をしてもう一つ書くことができました。余白の関係でどんなやりとりをしたか紹介できません。5月誕生会の懇談会で出された、「困っていること・悩んでいること」、です。ほんの一部ですが、お読みください。

☆上の子の生活リズムに引きずられ寝る時間が遅くなってしまふ。仕事復帰後ゆっくり関われる時間が減ってしまい、寂しさを感じさせているように感じる。☆ご飯を食べるときにスプーンを使わずに手づかみで食べてしまふ。☆年の離れた末っ子なので、大変なことが、ずっと続かないとはわかっています。なので大変なことも含めてただただかわいく、悩みはないです。☆3人目が生まれて一つ一つ細かく手をかけてあげられないときも増えたので、自分でできることをたくさん求めて過ぎてしまっている。上の子と下の子に挟まれて我慢している事が多いのではないかとと思う。

## 6月誕生会懇談会より その1

### 「申し訳ない」と思う気持ち、負い目とは何か。

人間は社会性動物です。群れを作り協力することによって繁栄しました。協力は人間の本質の一つです。「手伝ってもらおう」ことが良いか悪いかと言うと、群れ全体としては良い事で、群れを構成している個体としては悪い事です。貧乏くじを引いたような状態となるからです。

魚の群れで置き換えると、魚は確実に生き残るために魚群を作りますが、内側は比較的安全で、外側は危険です。負い目とは内部の魚が外部の魚に「申し訳ない」と思っている状況です。でもそのように役割分担しないと生きていけないのです。内部にいることは当たり前前のことです。逆にそこで「申し訳ない」と思われてしまうと、外の魚は惨めに感じてしまうかもしれません。自分の犠牲(努力)は何だったんだろうかと。

社会性動物に備わっている機能として、「役に立つことやお礼を言われることが何よりも多好感となる」という特徴があります。懇談会でも出た『申し訳ない』ではなく『ありがとう』を言うのはすごく重要なことなのです。それでも申し訳ないと思ってしまうのならば、こういう考えがあります。それは「外側の魚になった時に役割を全うする」つまり誰かを助ければ良いのです。今じゃなくても良いので遠い未来でも過去でも誰かを助けていれば群れの一員として助けてもらう権利は十分にあるのです。そこに多寡は本当の意味では関係ありません(しかし人間は発展しすぎたのでこの辺が難しいです。本来は群れ全体の利益が大事なんですけどね)。

負い目と言うのは「手伝ってもらおう事が当然ではないし、手伝うことも当然でも思っていない

ためにかかる精神的負荷」です。人間の本能との矛盾とも言えます。もちろん度が過ぎると、ずぶとすぎて厚顔無恥になってしまいます。塩梅は大事です。これに関連した書籍として「こんな夜更けにバナナかよ」という本があります。この本は重度の障害がある人がボランティアに対しても真正面から要求をぶつける様子が盛り込まれたノンフィクション小説です。詳しい紹介は園長にお任せします。

人間は弱い個体を保護することで繁栄しました。力が強い猿と手先が器用な猿は別物だったのです。力を鍛えることに注力しないでいい弱い猿がいたからこそ繁栄

したのです。弱者を守り多様性を保つことも人間の本質のうちの一つです。助けてもらったら感謝をしてお礼を言えばよいのです。謝るのは危害を加えた時です。(でもその線引きは難しいです…)その領域が広くなればもっと世の中は生きやすく素晴らしいものになると思います。

※懇談会で話し合われた内容から2点に絞り、今号と次号で紹介します。(文責 舜)

